



日本聖公会
大阪教区総務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第469号 2019年10月27日発行

私と聖公会の出会い、2002年3月から5月までの3か月間、他教派の神学生として受講した聖路加国際病院での「臨床牧会訓練」にさかのぼる。

そこで過ごした3か月間はあまりに濃密で忘れがたく、この限られたスペースに記すことはできないが、結局この実習の体験により、私はそれ



司祭 ヤコブ 義平 雅夫

ねじまきのような時間

する私に新鮮な感動と同時に、どこか古く懐かしいものに包まれているような安らぎを与えてくれた。それは聖公会が主教制を通して大切にしてきた歴史や共同体という広がり

だけの洗礼式があった。枕もとで聖書を読むチャプレンの静かな声に、こぼれそうになる涙を病室を出るまで我慢したことを今も覚えている。

常にも新しいものに追い立てられ、追い越され、また次のものが出てきて追いかけるような移り変わりの早い現代社会にあって、私はあの日、聖公会が保持してきた「主教制」や「共同体性」といった、簡単に変化しない（何百年もかけてゆっくり変化する）伝統の中に言葉によらない慰めを見出していた。それは単に今ここに生きている者だけでなく、すでに死んでいった人たち、帰ってこない人たちの対話も同じように大切にしようとする聖公会の心の表れだと私は思う。

までの信仰生活の遍歴の中で求め続けていた魂の宿り場を、この「病院礼拝堂」の中に見つけたような気がしたのだ。実習中、私はチャペル（トイスラーホール）で行われる「朝の礼拝」に出続けた。ほの暗いチャペルに蝋燭が灯り、美しい「祈禱書」の言葉により始められる厳かな礼拝は、はじめて聖公会の礼拝に参加

参加することもあった。祝福を受けるために車いすを押して前に進み出ると、司祭がそっと手を置いてくださった。どんな言葉より嬉しかった。やさしさではなく、サクラメントとしての恵みを受け取ったからだと思う。

3か月間の実習を終えて聖路加を去る日、ベストリーでチャプレンの1司祭は私のために祈ってくれた。何かに受けとめられているような気がして、涙が止まらなかつた。振り返ってみれば、あの3か月間、チャペルやベストリーは病院の中で別世界だった。最高水準の医療を提供し、最新の医療機器が並ぶデジタル

私はあれから病院チャペレンとして働き、6年半後、聖公会の一員となった。世界に広がる聖公会の、どこかにある小さな部屋のねじを巻く一員になりたかつたのである。（よしひら まさお・大阪聖アンデレ教会牧師・桃山学院中学校高等学校チャプレ



大阪教区に2人の新聖職者 金山将司司祭と ヒュームユーン執事が誕生

式典長 司祭 ジョイ 千松 清美

晴天に恵まれた10月5日(土)の午後1時30分から、大阪聖愛教会において聖職按手式が行われ、163人が出席した。

司祭志願者はペテロ金山将司執事、執事志願者はヒュームウイリアムユーン聖職候補生。式式はアンデレ磯晴久主教、式典長はジョイ千松清美司祭、副式典長はヨハネ古澤秀利司祭であった。説教者にはウイリアムス神学館館長のヨハネ黒田裕司祭を迎えた。当日の信施金126,673円はウイリアムス神学館のためにお献げした。按手式当日、金山将司司祭は恵我之荘聖マタイ教会副牧師に、ヒュームユーン執事は堺聖テモテ教会牧師補に任命された。按手式終了後は、1階ホールでお祝いの会が催され、成岡宏晃司祭の司会のもと、来賓からの温かい祝辞が続いた。説教者の黒田裕司祭のメッセージは、ひじき自体には鉄分がほとんど含まれておらず、鉄なべで煮る事で鉄分を吸収していくことに照らして、按手を受ける二人に励ましの言葉を語られた。神様に仕える

者として、鍋の中でよく混ぜられ煮られて、栄養素の鉄分が浸み込まれるように、教区、教会、信徒の皆様のなかで、多くの方と様々な関わりを持つうちに多くの経験を経て、味のある聖職者として変えられていくことを願うと話された。とくにひじき自体に鉄分がないように、召される者自身に

は栄養素がなくとも神によって変えられていくと語られたことが、金山将司新司祭と、ヒュームユーン新執事への大きな励ましだと私は感じた。(せんまつ きよみ・石橋聖トマス教会牧師、豊中聖ミカエル教会管理牧師、庄内キリスト教会管理牧師)

司祭按手の恵みにあずかり

司祭 ペテロ 金山 将司

去る10月5日に司祭按手の恵みにあずかりました。これまでお支えくださった皆様に感謝いたします。思えば聖職候補生として初めて務めた芦屋聖マルコ教会から始まり、按手式を執り行った大阪聖愛教会、大阪教区での出発の地となった川口基督教会を経て、今恵我之荘聖マタイ教会で神の務めを果たさせていただいております。聖餐を執り行えるというあらたな喜びとともに、司祭に按手された重責を担うということに、再び心の帯を締め直したような思いがいたします。

この司祭へと至るまで多くの出会いがあり、そして多くの世を去っていった兄弟姉妹との別れがあったことを思い出します。どの出会いも平易なものではなく、どの別れも陳腐なものではありませんでした。私はその出会いと別れにその時その時精一杯に務めを果たしてきたのですが、経験を積むうちに、あの時、ああすればよかった、という思いを抱くときがあります。それは私が司祭として務めを果たす中で大切なことだと感じます。一つの務めを終えてもそ

(次頁に続く)

(前頁より続く)
 れだけで満足せず帯を締めて次へと当たる。そしてそれをいつか神が私を呼ばれるか、退職の日まで日々繰り返ししていくということ。退職まであと40年、この繰り返し先は長いですが、どうぞこれからの司祭生活の中でも皆さんと祈り、分かち合い、聖餐をともし、キリストを伝えるこの道を歩むことができたら幸いでありませう。
 (かなやま まさし・恵我之 荘聖マタイ教会副牧師)



執事按手の恵みを受けて

執事 ヒューム ウイリアム ユーワン

10月5日、大阪聖愛教会において、兄弟姉妹の前で執事按手を受けたのは私にとって神様からのとても大きな恵みです。私は聖職候補生志願書を提出した時から今まで、約

6年が過ぎました。その時に私と私の家族は色々な困難に当たりましたが、皆様のお祈りとお支えによって執事に按手していただきました。ウィリアムス神学館に入る前、私は日本で長い社会経験を積みましたが、私はイギリスのエンジニアとして働いてきましたので、恐らく私の考え方ややり方は皆様とは少し違うものだと思います。けれども、アングリカン・コミュニオンは世界中に広まった組織で、多様性を促しますので、多様性は良いことだと私は思います。
 按手されるまで、私は恵我之荘聖マタイ教会及び堺聖テモテ教会でお世話になってきました。この二つの教会には改めて感謝したいと思います。また、聖職候補生として働いた時にお世話になった大阪教区の皆様と、そして導いてくださった神様に感謝いたします。

これからも今以上に神様と人に仕え、執事職として働かせていただきます。どうぞよろしく願います。
 (ひゅーむ ういりあむ ゆーわん・堺聖テモテ教会牧師補、プール学院中学校・高等学校・短期大学チャプレン補、桃山学院教育大学チャプレン補)

大阪・京都特別協働教区運営委員会が発足して今年で3年目となります。2017年5月の「特別協働教区」関係発足のための合同礼拝以来、運営委員会は一体何をして

OK 運営委員会より

大阪・京都特別協働教区運営委員会 (長) 司祭 大岡左代子



るの?と思われている方も多いいのではなないでしょうか。本委員会の役割として「合併を推進する委員会」から期待されてきたことのひとつに「特別協働教区関係を粘り強く推進する」がありました。この点については随分実行されてきたと感じます。これまでは、協働を進めるための調整役としての役割が大きかったと今、あらためて振り返っています。しかし、これからは大阪教区と京都教区は本場に「合併」に進むのか、「特別協働教区」関係の強化に留まるのか、ということを真剣に議論しなければならぬ時が来ていると感じます。どちらの教区も従来の体制を保つことが困難なことは明らかで、これからも福音を宣べ伝える器として用いられるためには、わたしたちは何を大切に、何を変えていかなければならないのか、ということについて、もっと語り合う必要があると思います。主教会においても、日本聖公会の教区制について様々に考えられているようです。現実的には信徒の減少、教役者不足、財政の逼迫というマイナス要素ばかりがクロースアップされますが、それは新しい宣教の私たちを見出すチャンスかもしれません。もちろん困難な課題があることは否定できませんが、宣教について考えることは、本来は楽しいこと、嬉しいことのはずです。これからはそのような議論の場をつくっていくことも、運営委員会に託された役割であると考えます。新しい信仰共同体の在り方を求めて共に歩みたいと思います。

進めるための調整役としての役割が大きかったと今、あらためて振り返っています。しかし、これからは大阪教区と京都教区は本場に「合併」に進むのか、「特別協働教区」

昨年、台風のため教区礼拝が中止になったので、今年2年ぶりの教区礼拝が、主教座聖堂、川口基督教会にて9月29日(日)午前10時30分から開催されました。教区礼拝が主教座聖堂で行われるのは、

初めてではないかと言われています。「さあ行こう、主に結ばれて」のテーマに、主教様が、コロナの信徒への手紙2...6、19を使徒書として用いられました。



川口基督教会の礼拝堂、礼拝堂の2階バルコニー、会館の3階に約400人が出席し、感動的なオルガン演奏や、豪華な聖歌隊の奉仕による賛美を、高らかに挙げる事が出来ました。信施は磯主教が説教で話された「聴き取れないほど小さな声を聴く中で始まった活動」である「RAPFQQ(在日難民との共生ネットワーク)」と「聖公会生野センター」へ284,984円(それぞれ142,492円)が献げられました。

今年は昼食や、午後のプログラムはありませんでしたので、キッズ広場を説教前の聖



キッズ広場について

へレナ 斎藤みち

説教前の聖歌の間に礼拝堂から移動した子どもたちは、賛美や自己紹介などで雰囲気や和んだところで「金持ちとラザロ」という手作り紙芝居を見ました。そして千松司祭のお話を聞いた後、みんなで一緒にお



歌で別の場所に移動して行い、陪餐中に礼拝堂に戻るよう

しました。最後に大西修主教からご挨拶を頂きました。大阪教区に対しての熱意を表され、教区の皆さんをよく励まして下さいました。

今年は、多くの信徒・教役者のお祈り、話し合い、そして、協力によって、喜びに溢れる教区礼拝が出来ました。

どうか、「主に結ばれ、」その礼拝で体験した喜びを各教会に持ち帰り、分かち合い、さらに素晴らしい信仰生活・教会生活・礼拝生活が出来ますように！

(ういるそん うおーれん・芦屋聖マルコ教会牧師)

祈りをしました。千松司祭から祝福をしていただき、賛美をしながら献金もしました。温かな雰囲気の中、元気な子ども達の姿を神さまにお献げすることができました。

キッズ広場への参加人数は、子ども27人、青年10人、大人9人でした。

(さいとう みち・石橋聖トマス教会信徒)

私は執事按手を受けたばかりですので、聖職リレーエッセイを書くのはこれが初めての機会になります。

私は聖職への道を歩み始めた時から今までに、色々な方に私についてのさまざまな質問をされたことがよくありました。その中で、一つ面白い質問は宗教と科学についての質問です。特にその質問は宗教と科学の対立についての質問です。私は20年以上科学者として働き、創薬科学の分野の中で働きましたので、その質問はもっともだと思います。

しかし、私はその質問にあまり上手く答えることができません。一つの理由は私が生まれながらのクリスチャンで、私は科学者になる前からクリスチャンでしたので、その対立についてあまり考えたことがありません。結果として、私にとって

は、宗教と科学との間に矛盾がないからです。確かに、聖職者になった

聖職リレーエッセー ①



宗教と科学

執事 ヒューム ウィリアム ユーワン



科学者は少ないと思います。が、自然世界において宗教と科学は重複します。「自然

の美しさ」(Beauty of Nature)という言葉を聞いたことがあると思います。その美しさは美観の側面に限られてはいません。つまり、そのような美しさの範囲には複雑さが含まれています。その複雑さの中で、神様の働き手を見るようになります。

科学の中にはまだ沢山のことが知られていません。その未知のことは人体、または沢山の病気をとり囲みます。ですのでも、私にとっては、クリスチャンであることと同時に科学者であることは本常に相互性があるので

す。
(堺聖テモテ教会牧師補 プール学院中学校・高等学校・短期大学チャレン補、桃山学院教育大学チャレン補)
※今回は柳時京司祭にお願いします。

連合男子会 一日修養会

イサク 寒河江 研司

連合男子会主催の一日修養会が、9月14日(土)川口基督教会で開催された。「新教会設立に向かっている共同の働き」私たちが今までのままでいいでしょうかといったテーマで東京教区の卓志雄司祭に講演をしていただいた。卓司祭が牧師をされているインマヌエル新生教会は、今年1月に、池袋聖公会、東京聖マルチン教会、練馬聖ガブリエル教会の3の教会が1つになって新しくつくられた教会だ。この3つの教会も、司祭不足、財政難、信徒数減少といった問題や課題を抱えていた。練馬聖ガブリエル教会の牧師だった卓司祭が、加えて2015年に東京聖マルチン教会の管理牧師になられた事で、二つの教会で定期的に合同礼拝をもた



れ、その後、池袋聖公会も加わるようになった。安定した礼拝を守る為のひとつの手段だった。交流を続けていく中で合併する事の話し合いが成されるようになった。その中では、それぞれの教会の歴史、愛着心などからこのままでいいとの意見もたくさんあったとの事。それでも、何年後かの信徒数、司祭数または地域の人口変化などの統計をつくられ、次世代にこのままの状態を継承すべきではないと、話し合いを重ね、しつこく丁寧発信されて、先駆者になるとの思いで、三つの教会が新しい共同体としてひとつの教会をつくられた。

「安定した礼拝を守る為、さらに力強く宣教する為にひとつになった。」と前向きなメッセージをいただいた。83人の出席で、献金70,368円はインマヌエル新生教会の働きの為に献げられた。

(さがえ けんじ・大阪聖三一教会信徒)



司祭 ジョイ 千松清美

2017年5月9日(火)
台湾聖公会と第5期宣教協働(姉妹教区)関係更新の調印式を機に、これまで以上に具体的な宣教協働関係をもつため、3年間の宣教プロジェクトを計画しました。これはとくに青年が中心となる活動とし、「協力宣教キャンプ」と

名付けました。2017年度は台湾にて行われ、大阪教区から3人、台湾聖公会から15人が参加。2018年度は大阪にて行われ、大阪教区から1人、台湾聖公会から14人が参加。3年目の2019年度は台湾聖公会降臨堂チャプレン室と交流のある西マレーシア聖公会が主催し、大阪教区から1人、台湾聖公会から13

人が参加して協働で宣教活動を行いました。

この宣教プロジェクトの最終年は、2019年8月20日(火)と27日(火)にマレーシアにて行われ、マレー半島東側のクアラトラングア市と西側のクアラランプール市周辺にある小学校、老人ホーム、教会を訪問し、年齢に

応じた体操、歌、ゲーム、聖書の物語の演劇などを行いました。イスラム教国であるマレーシアにおいて、また多民族の文化が入り混じる中でのキリスト教会の宣教活動の意味を学びました。また台湾聖公会降臨堂からの幾人かの青年は訪問する先々で、笑顔いっぱい元気な姿で自身の信仰を証し、引率者である私自身はその姿に感動して帰ってきました。

台湾聖公会と大阪教区の宣

ヨセフ 葛西 信宏

3年間に及ぶ大阪教区と台湾教区との最後の青年交流プログラムとしてマレーシアでの宣教キャンプに、私は通訳として参加させて頂きました。

マレーシアではイスラム教徒が多数派ですが、キリスト教徒も人口全体の10%いるそうです。今回の訪問地はイスラム教徒が多い街クアラトラングアと首都のクアラランプールでした。最初の訪問地にあるキリスト教会は外見ではわからないようにしてあり、休日でもマレーシアの13の州の

教協働関係は今年の教区会で終了しますが、この青年同士の活動および教区間の交流は別の形で継続されていくと期待しています。長い間、とくにこの3年間の協力宣教キャンプにおいて、皆様のお祈りと励まし、経済的な支援で支えられていました事を感謝申し上げます。

(せんまつ きよみ・石橋聖トマス教会牧師、豊中聖ミカエル教会管理牧師、庄内キリスト教会管理牧師)

うち4つの州に制定されている金曜日及び土曜日らしいです。

クアラランプールでは不法移民の子供達の施設を訪問したり、養老院を訪問したり、また、神学院を訪問したりしました。そこで聞いた話では、数年前には牧師が拉致され消息不明な状態が続いているらしい。政府は信教の自由と言いつつも、イスラム教徒との合同祈禱会も許可しないらしい。宗教における多数派と少数派、そこに罅ひはあるでしょうが、お互い殺戮が起きるような事態にはなっていない

ん。お互いの存在を認め共存しようとする努力していると同時に信仰の力を感じました。振り返って、私達が信仰の自由を保障されている事に感謝しつつも、自分自身の弱い信仰でも何かできる事はないだろうか、自省と共に深く考えさせられました。

(かさい のぶひろ・京都教区聖アグネス教会信徒)

グレース 重政 恵

今回のキャンプでの子どもたちと老人ホームの方々との交流で印象的だったことがそれぞれあります。

前半でお世話になった老人ホームで、1人の女性に私のために祈ってほしいとお願いされました。しかし、実際私は心の中でお祈りすることはあっても、口に出してお祈りすることがありませんでした。それでもありのままの思い、言葉でお祈りし、ありがとうと言ってもらえたときは私も心が温かくなりました。そして、移民の子どもたちとの交流は特に感動しました。

彼らは難民であるため、あまり明るい将来がないと聞きまし。ですが子どもたちはそれを感じさせないほど大きな声で元氣よく賛美している姿に、とても胸が熱くなりまし。

3年連続で参加しましたが、一緒に過ごしていくにつれて台湾の青年たちを少し羨ましく感じました。

その理由の一つの出来事として、1人の青年が即興で考えた劇がありました。それを日曜学校で披露する

ために練習をしていたところを私は見ていました。とても楽しそうにしていました。この決して手は抜きません。このように一緒に取り組める同世代がたくさんいて、私ももっと多くの日本の学生と一緒に参加したかったなと思いまし。

最後に、3年間サポートしてくださった教区をはじめ、庄内キリスト教会の皆様、本当にありがとうございます。(しげまさ めぐみ・庄内キリスト教会信徒)



聖職は召されるもの

先日、聖職 按手のための リトリートに 参加した。黙想する中で、私自身が聖職を志すに至るまでの道のりを思い出すことになった。大きかったのは、母親の死だと思。私が高校生の時、元氣だった母が、病に倒れた。すい臓がんだった。発見が遅れ、手術をしてみたが、もう手遅れだった。さらに今のようにケアが十分ではな

ったので、大変な苦しみようだった。すでに教会には通っていた私は、「神さま、どうしてこのような苦しみを母に負わせるのか」、心の中で天に向かって叫ぶ日々だった。苦難の中にキリストが共におられることに気づくのは、ずっと後のことだが、母の死の前後に、司祭夫妻や友人、教会の皆さんの祈りや温かい声がけに、どれほど支えられたかを思い出した。この体験も

女性だからこそその気づき 日本聖公会婦人会役員任命式



6月に開催された日本聖公会婦人会第26(定期)総会に

於いて会長選出教区に大阪が選ばれました。次期総会までの3年間を、私たち6人の役員で担ってまいります。8月29日(木)大阪聖愛教会にて植松誠首座主教様から役員と内田望チャプレンの一人ひとりの手を取り任命を受けました。

1908年に大阪で日本聖公会婦人会の母体の組織が設立され、その後、時代が移り社会が変わり、現在に至るまで婦人会の働きは目まぐるしく変わってきました。

感謝箱献金と被献日献金の働きは大切な2つの柱として、明治、大正から現在へ続けられました。全国からの献金は、お献げ先の団体やグループなどの現状を理解した上で、国内各所または海外へ送られています。婦人会は女性だからこそその気づきが、たとえ小さな働きでも、神様のご用のためになるのではと始まったのだと思います。

このような歴史を背負った重い役割をお引き受けした私たちを、どうぞお祈りでお支え下さいますようお願いいたします。

聖職を志願することにつながったのだと思う。母の死をきっかけに、洗礼・堅信に与ることになる。その準備の中で、どのようなお話があったか、ほとんど覚えていないが、なぜか「磯君、聖職というのは、人間の誕生から死まで、関わらせて頂く光栄な仕事なのだよ」という司祭の声が、ずっと耳の奥に残っていたことを思い出した。またある日、教会の事務所でたわいもない話で談笑している時、ボーイスカウトの隊長をしてもらったS兄が、突然

ドアを開けて「磯君、君はどうか」と、叫ぶように言われたのだ。神学校のことなど、全く頭になかった私の心の中に「しんがっこう」ということが、飛び込んできた一瞬だったことも思い出した。これらの一つ一つの背後に不思議な神さまの導きがあったのだらう。

思い巡らしている間に、聖職は「召されるもの」だということ、改めて深く思わされたリトリートだった。

(主教 アンデレ)

- 会長 ハンナ 井上恵美子 (高槻聖マリヤ)
- 副会長 マリヤ 井上美津 (恵我之荘聖マタイ)
- 書記 ユニケ 山本久美 (大阪聖愛)
- 書記 ルデヤ 川村直美 (大阪聖アンデレ)
- 会計 マリヤ 影山章子 (大阪聖ヨハネ)
- 会計 テレジア 植原久美子 (石橋聖トマス)
- チャプレン テモテ 内田望司祭

**教会奉仕者及び
聖職への道セミナー**
@宝塚黙想の家



去る8月20日から1泊2日の日程で行われた「教会奉仕者及び聖職への道セミナー」に参加いたしました。場所は御受難修道会の宝塚黙想の家。参加者は20人。敷地に入ると等身大のイエス様のご像がありました。そのイエス様が「よく来てくれたね」と迎えてくださったように感じました。「信仰の醍醐味」という主題のもと、神戸教区の芳賀秀

一司祭様がお話してくださいました。熟練の牧会者として長年のご経験から語ってくださいました。何度も「聖霊のお働き」「神さまは生きておられる」と言われたのがとても印象に残りました。

お話を伺って感じたことはたくさんありましたが、特に「伝道」ということに思いを至らせました。私は伝道は「自分ががんばらねば」「自分ももっと励まねば」と、自分が自分だと考えていたように思いました。でも伝道は神さまが主役。それに参与させて頂くのが伝道だと示されました。また、伝道は人を変えようとするのではない、とも示されました。自身が神さまの恵みを喜んで生きる、それが伝道の根源だと思ったことでした。

2日目の「若者に聞く」の講師は同志社高校宗教主任の大岡創一朗先生。日々すてきな出会いの中で楽しく働いている、と終始にこやかに話してくださいました。こういう先生に出会える生徒さんたちは本当に幸せなことだと思つたことでした。

英国へ引退女性宣教師を訪ねて

司祭 ペテロ 竹林 徑一

6月下旬から約10日間、15年ぶりにイギリスへ旅行する機会がありました。サッカー世界大会に燃えるフランスは40℃を超える酷暑だとTVが伝えていましたが、イギリスは朝夕肌寒いほどで、天候不順のようでした。

学校が夏休みに入ったのか、自然史博物館や大英美術館、そしてどこの観光地も校外学習の生徒たちや親子連れで溢れ、またインバウンドの急増と観光公害の問題は、日本だけでなくどこも同じ課題を抱えているようです。街頭や地下鉄・空港の雑踏でも、世界中の言葉が行き交って、ロン

個人で黙想する時間もたっぷりあり、よい時を持ってくださいました。こういう機会を設けてくださった京都・大阪両教区の聖職養成委員会の方々に感謝します。

(京都復活教会 加藤 大)

ドンはずますます国際都市化している実感しました。

旅の後半、ロンドンから北へ特急電車で2時間、中世の姿を残す大聖堂の町、ヨークで2泊しました。CMS派遣の女性宣教師で、プール学院で共にチャプレン仲間として働いたイブリン・ロー先生とパメラ・クーパー先生を訪問し、旧交を温めました。

ヨークの郊外、南へ車で15分位の閑静な住宅地に、二人で質素に余生を過ごされています。壁には大阪時代を思い出す写真が掛けられて、CD



クーパー先生(左)とロー先生(右)
中央は竹林司祭のお孫さん

等も楽しまれていようですが、さすがにしゃべる機会がなくなった日本語は、ずいぶん忘れたと言われていました。80歳近くになって体力の衰えに加え、ロー先生は、事故で転倒したせいで腰を痛められ、階段の昇り降りがつらくなり、平屋の家屋を探していたところ、幸い現在地の近くに適当な家が見つかり、手続きが完了次第、引越しの予定だそうです。通い慣れた近所の教会やスーパーも近く、安堵された様子でした。高齢者施設への入居は、日本と同じく難しくなり、在宅ケア中心の政策だとのこと。教会も地方になるほど、聖職者不足で多くが兼牧・巡回の傾向だと聞き、悩みは共通しているようです。

ティーとケーキをごちそうになり、1時間半ほどお邪魔・お話をし、バス停までクーパー先生に送られ、再会を約束して別れました。大阪教区の皆様に、くれぐれもよろしくとのことでした。
(たけばやしけいいち
大阪教区退職司祭)

大阪教区墓地

10月14日(月・休)、大阪教区墓地(大東市龍間)の聖別式が磯主教の司式、内田司祭の補式で行われました。参列者は14人。

第一回の埋葬式は、11月2日(土)の午後2時から行われます。



大阪教区墓地
第1回合同埋葬式のご案内

日時：2019年11月2日(土) 諸魂日
 午後2時より

場所：大阪霊園
 (大東市龍間331 電話 0120-69-1117)

広島平和礼拝に参加して

小玉 帆華

私は8月5日(月)から6日(火)にかけて広島県を訪ねました。このプログラムは2回目の参加でしたが昨年よりもたくさんの方の参加ができて嬉しかったです。

5日は広島女学院高校やたぐさんの高校の生徒さんと共に「核廃絶!ヒロシマ中高生による署名キャンペーン」に参加させていただきました。2〜3人で1つの署名用紙を持ち、原爆ドームの周りにいる人に声を掛けました。限られた時間ではありましたが、沢山の方に署名をいただくことができました。

と必死に声を掛けました。声を掛けたほとんどの方が快く署名して下さり、「頑張つてね」などの暖かい言葉をかけて下さいました。日本の方だけでなく、外国の方もたくさん署名に協力してくださり、とても嬉しかったです。



そして夕方には、平和行進に参加させていただきました。今日のために他の都道府県から来られた沢山の人たちと、1時間ほど広島市内を、聖歌を歌いながら手に折り鶴を乗せて歩きました。大阪では、決して目にする事の無い光景でした。平和ということを通して深く考えさせられ、貴重な経験をさせて頂きました。様々な思いで明日、8月6日という日を迎えるのだなと思えました。

6日は朝から原爆犠牲者追悼礼拝に参加させていただきました。礼拝中、8時15分に黙祷を捧げました。この出来事が、大阪にいる時よりも身近に感じられ、平和に関する思いが、たくさんわき上がってきました。礼拝後は被爆証言を聞きました。戦争を経験した方のお話は生々しく衝撃的でした。実際に被爆された方のお話を聞けるのは、私たちの世代が最後なので、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを心に留めて私たちが後世に伝承していかなければならないと思えました。

今回広島平和記念礼拝に参加し、改めて普段の生活がほんとうに幸せなものだと心の底から思いました。戦争が起これた悲劇を、二度と繰り返さないよう身近に感じながら、過ごしていきたいなと思いました。

(こ)だま ほのか
 プール学院高等学校
 3年)

キャンプ特集!

小学生キャンプテーマ
「見つけよう一番星」

主題聖句

「光の子として歩みなさい」
(エフェソ5:8)



8月8日(木)～10日(土)にかけて小学生キャンプが北小松キャンプ場で行われました。参加者は小学生が23人、スタッフも23人でした。今年のテーマは「見つけよう一番星」で、主題聖句はエフ

エソ5:8の「光の子として歩みなさい」でした。

今年の教育部のテーマは「マルトウリア」。「証し」という意味を持つこの大きなテーマを、子どもたちにどのように伝えたらよいか、悩みながら出されたのが今回のテーマと主題聖句でした。

テーマにも入っているように「星」がキャンプの中でたくさん登場しました。1日目の夜のゲーム大会では、グループに分かれてポイントである星をどれだけたくさん集められるか競い合いながら楽しい時間を過ごしました。その後は、ミサンガ作りとUVレジンで星を作りました。集中しながらミサンガを作るという今までのキャンプとは一味違う光景がありました。

2日目のお昼は野外料理。今回はグループごとにスープとおかずを作り、バイキング形式で食べました。いろいろなグループのところへ取りに行きって食べる姿は楽しそうでした。

夜はキャンプファイヤー。スタッフそれぞれがネタを出し合い、たくさん踊ったりす



ミサンガ作り

ることが出来ました。最終日の思い出制作でも、星のカードを使ってメッセージを書き合いました。

今年はそのままで暑すぎず、無事に2泊3日を終えることが出来ました。見守ってくださった皆様と、お祈り・支援をいただいた皆様に感謝です。子どもたちの存在自体が「証し」をしてきています。キャンプの中で感じた事、得たものそれらすべてはイエス様と繋がったからこそ与えられたものです。周りにキャンプに参加した子どもがいれば是非とも話を聞いてみてください。また、キャンプのふりかえり文集は各教会に届いていますので、是非とも読んでみてください。 「楽しかった」

という感想の向こうに一人一人を繋げて下さったイエス様がおられます。
(執事 柳原 健之)

ふりかえり文集から子どもたちの感想をお届けします。

2日目のキャンプファイヤーはおどったことやうたったりしてとても楽しかった。びわ湖もおよいだりしてたのしい。グループの名前も決めました。1日目2日目の夜、一番星も見つけました。
(福井聖二教会 4年生 落合 悠太)

去年会った、大西君の弟のすずは君と出会えて、うれしかったです。また、キャビンも同じだったので、いろいろあそんでくれました。来年も来て、ほしいです。なので、ぼくも来たいです。
(福井聖二教会 5年生 吉村 東真)

はじめてのキャンプでとてもおもしろかったです。チームの吉村とうまくんと友達に

なりました。いっしょにねたりあそんだりしてあそびました。いっしょに大木であそび、おにごっこをしました。とてもたのしかったです。ぼくはたくさんあそびました。また来年もきたいと思います。
(大阪聖二教会 4年生 大西 涼葉)

一番楽しかったのは、キャンプファイヤーです。火が大きくてきれいだったし、いろいろなゲームもあって楽しかったです。1回目や2回目の時は、だいぶ緊張していたけど、今回はあまり緊張しなかったのより楽しかったです。他に野外料理が楽しかったです。前の日のゲームで星をあまり集められなくて、あったのだったけど、思っていたよりおいしかったです。全部楽しかったので2泊3日があつというまにすぎました。キャビンやグループの人たちも優しくだったので楽しくすごせました。とっても楽しかったの、来年はJ'sキャンプに行きたいです。

(恵我之荘聖マタイ教会 6年生 井上 菜々子)



夏の日の2019

J's キャンプテーマ

「マルトゥリアその先に…」

主題聖句「その声は全地に響き渡り、
その言葉は世界の果てに及ぶ」

(ローマ 10:18)

今年も2019夏J's キャンプが北小松で8月5日(月)から8日(木)まで行われました。今年のテーマは、「マルトゥリアのその先に…」ということと、証しすることを大切にしました。

私もスタッフとして参加させていただきました。今回は

小学生キャンプに来ていた中学生が多く参加してくれたこともあり、新たなメンバーでのキャンプができたことを嬉しく思います。

初日の様子はキャンパーたちの緊張が伝わり、みんなが仲良くなれるのか、どんなキャンプになるのかと心配していました。しかし、次の日はキャンパーたちの顔から笑顔が溢れ、あっという間に仲良くなっていてキャンプの力(共に生活すること)はすごいなと改めて実感しました。

私自身も中高生時代は神戸教区の中生大会に毎年のように参加していました。夏休みの1番の楽しみと言えば中高生大会であり、それに参加したことによって今の自分があるとも言えます。

J'sのスタッフとしての参加は、春のキャンプを含めて4回目ですが、スタッフとしてキャンパーたちのサポートができていたのかについて毎回考えます。私の1番の願いは、J's キャンプに参加したことによって、一人ひとりが自分を出せるキャンプ(マルトゥリ

ア)、居心地の良いキャンプであり続けてほしいです。
(下鴨基督教会 藤岡 夏未)

今回で最後の夏のJ's キャンプということでキャンプ長を

させて頂きました。1日目に北小松キャンプ場に集まり、4日間のプログラムを決めるためにみんなで話し合いをしました。全話が終わるまで、仲良くなれるのかな? 4日間協力して楽しめるかな? と思いながらいました。けれど、2日目のバーベキューやキャンプファイヤーで距離が縮まり、3日目にはほとんどの人がみんなと仲良くなって楽しめていたので良かったです!

自分が夏のJ's キャンプに来たきっかけは、春のJ's キャンプで沖繩に行かせてもらった時に「夏も楽しいからおいでよ!」と誘って貰ったのが、きっかけでした。そこで色々な人に出会って、色々な事を教えていただきました。

今年のJ's キャンプは、キャンパーが16人で、そのうち大阪教区は2人しかいませんでした。もちろん来てくても

れなかった人もいるかも知れません。でも、このキャンプ自体を知らない中学生や高校生が多くいると思います。そういう人たちにも知ってもらいたいと、このキャンプを通して思いました。

僕はもうJ's キャンプには行けません、この楽しいJ's キャンプをもっと色々な人知って欲しいと思うし、何年後かにスタッフとして戻って来ることができれば嬉しいです。
(西宮聖ペテロ教会 高校3年生 当舎 葵)

J's キャンプで集められた教会の人たちと自分たちで何をするか、何をしたいかを考え、3泊4日を造るこのキャンプが大好きです。

初めて会った時は緊張、人見知り、男女の壁がまだあつてスケジュールを考える時、「大丈夫かな…」と思っていました。ですがみんなでご飯を食べて食器を洗って、やりたい事をしていうちに打ち解けていって色々な事を朝から晩まで話すことが本当に楽しかったです。

キャンパーだけでプログラ

ムを進めるという時は、スタッフさんたちは見守るだけだったので進めるのが難しく、スタッフさんたちがいるありがたみを感じました。

3日目にした肝試し楽しかったー、終わった人はこれから来る人を脅かしたり、2人で回ってドキドキしたり!? もっともっとみんなで話して最後の夜消灯時間を遅らせてもらったりもしました。だからこそ4日目最終日はみんなに会えて良かったと、この夏は最高の夏だと心の底から感じました。そして涙を拭いても拭いても止まりませんでした。

J's キャンプで私は、大切な友だちができました、その子とは小学生キャンプで会い前回のキャンプで再会し今回のキャンプでもお互いの事を考え励ましあってきました。そんな友だちができて、また新しい出会いがあり、なんて良いキャンプなんだと毎年思います。春のキャンプが待ち遠しい。

(京都聖二教会 中学3年生 山本 あい)

世界の窓

◎ブラジルの主教
 団 アマゾン森林
 火災について「貪
 欲と憎悪」が原因
 と批判
 ブラジルにおけ
 るアングリカン・
 チャーチ (Igreja
 Episcopal Anglicana do
 Brasil) の15人の主教は、ブ
 ラジル政府にアマゾン森林火
 災の広がりを止めるための対
 応策を取るよう呼び掛けまし
 た。ブラジルのアングリカ
 ン・チャーチの主教会の主教
 教書の中にアマゾン森林火災
 について過去7年間でブラジ
 ルは最悪の火災に直面したこ
 とが書かれていました。また、
 「2週間以上、アマゾンの森
 林は燃えていて、貪欲と憎悪
 で焼かれている…アマゾン森
 林の火災は干ばつのみが原因
 ではなく、自然災害でもない
 むしろ、ブラジル大統領の無
 責任な演説と声明に勇気づけ
 られた農業関連産業の利害を
 代表する人々と土地強奪者と
 探鉱者によって仕組まれた」
 と書かれていました。更に、
 ロマ8・21-22を引用するこ
 とと同時に主教教書の中には

次のように書かれていました。
 「アングリカン・クリスチャ
 ンとして私たちは黙認するこ
 とができません。私たちは私
 たちの洗礼の誓約を通して認
 めるアングリカン・コミュニ
 オンのの宣教の5指標を取り戻
 さなければなりません…」
 (Anglican Communion

News Service, September
 4th, 2019)
 邦訳：ヒューム ユーワン
 執事
 (堺聖テモテ教会牧師補、プ
 ール学院中学校・高等学校・
 短期大学チャプレン補、桃
 山学院教育大学チャプレン
 補)

公 示

救主降生 2019年9月25日
 日本聖公会大阪教区
 教区会議長 主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第123(定期)教区会を、下記のように招集します。

記

- ◆日時 2019年11月23日(土)
午前9時(開会聖餐式)から午後5時
- ◆議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)会館
大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会の書記を下記のように指名します。

書記 司祭 マルチン 韓 相敦
 書記 司祭 テモテ 内田 望

公 示

救主降生 2019年10月5日
 日本聖公会大阪教区 教区主教
 主教 アンデレ 磯 晴久

下記のとおり、人事異動を発令します。

- 司祭 ペテロ 金山 将司
10月5日付 恵我之荘聖マタイ教会牧師補
の任を解く。
10月6日付 恵我之荘聖マタイ教会副牧師
に任命する。
- 執事 ウィリアム ヒューム ユーワン
10月6日付 堺聖テモテ教会牧師補に任命
する。

大阪キリスト教連合会・研修会 2019

聖書と パレスチナ問題

キリスト者は『イスラエル国』を
 支持しなければならないか？

講演：ペテロ 岩城 聰司祭
 日時：2019年11月25日(月)
 午後6時30分～8時(開場午後6時)
 会場：日本聖公会 大阪聖ヨハネ教会
 入場無料・申込不要(席上献金があります)

教区の動き

常置委員会報告

9月19日(第12回定例)

I. 主教報告 及び諸報告

- *10月14日(月・休)14時から大阪教区墓地聖別式を挙行
- *台風15号による被害に関して、横浜教区において、千葉県教会に被害はなしとの事
- *来年より教区報は毎月(3月より)発行、但し1・2月のみ2月1日発行
- *京都教区と10月23日(水)に合同の常置委員会を開催し、意見交換を行う。

II. 協議事項

- *教区礼拝信施金について、「RAFIQ」(在日難民と共生ネットワーク)と「聖公会生野センター」に、それぞれ半額を献拠ることを確認
- *定期教区会(11月23日 土・休)の開始時刻を9時とする

ことを確認。

*大阪聖愛教会より、信徒奉事者1名(川俣理兄)の追加承認申請があり、審議の上これを認め主教に推挙。

*聖公会社会福祉連盟の西部チャプレンとして、現任の内田望司祭の後任として、11月より小林聡司祭に担っていたことを了承。

*教区会上程議案を確認。

*小林聡司祭が10月2日(水)7日(月)、東マレーシア、コタキナバルで開催される「聖公会東アジア教会協議会」総会に出席されることになり、10月6日(日)の主日礼拝の司式・説教は角瀬克己司祭(神戸教区退職司祭)をお願いすることを確認、了承。

*磯主教より、主に大阪南部地区諸教会の教役者を中心に、京都教区の近隣教会教役者にも声がけし、同地区の教会活性化について検討会開催を行いたいとされ同意。(以上)

日本社会が世界のすべての人々に開かれた社会になりますように

署名請願協力をお願い

主教 アンデレ 磯 晴久

主の平和がありますように。

さて、例年のように、「外国人住民基本法」と「人種差別撤廃基本法」の制定を求める国会請願書・2019」が各教会に届いていることと存じます。

日本聖公会は、「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)」の活動に参加しています。

関西では、関西の外キ協に加えて「外国人との共生をめざす関西キリスト教代表者会議」があり、京阪神3教区の教区主教が参加しています。

現在日本で暮らす外国人住民はおよそ273万、その出身国数は196ヶ国になります(国連

加盟国数は194)。また外国にルーツをもつことも、100万人を超えています。そして帰化によって日本国籍を取得した外国人は約53,000人となっています。

これは日本の人口の3パーセントにあたり、単純な計算ですが、もし私が30人の人に出会うとすると、その中の一人は、何らかの形で外国にルーツのある方となります。

このように日本社会は多国籍・多文化社会になりつつありますので、「共に生きる社会・多様性が活かされる社会」になることが大きな課題と言えます。外国にルーツを持つ方と共に生きる教会形成も課題となるでしょう。

ところで、この請願は20年来毎年行われていて、衆参両院の議長に提出されています。ただ、例年のことであるためか、最近署名の数がとても減っています。どうか各教会でも呼び掛けていただいて、ご協力いただきますようお願いいたします。

日本社会が世界のすべての人々に開かれた社会になりますように、ご理解とご協力、ご加勢をよろしくお願いいたします。

部数が足りない場合は、白い紙で結構です。署名の面をコピーしてください。教区事務所にお届けいただけます。また、外キ協に送ります。

教会・施設の動き

川口基督教会

○今年9月から毎月第3週金曜日の午後1:30〜2:30、

西区役所の地域包括支援センターとの共催で、教会の三階ホールを会場に「立寄り処川口ほっこりサロン」を開始。柔道整復師による体操と、お茶を飲みながらほっと一息つ

ける1時間で、同センター花乃井ブランチの職員との相談も可能です。参加費は100円。次回は10月18日、11月15日、12月20日。

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇ 11月13日 (水) 10:30 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ジョイ 千松清美司祭

- 1日 司 祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920 英)
- 3日 司 祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司 祭 ヨハネ 張本 栄 (チャン・ボンヨン 1966)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968 英)
- 5日 司 祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司 祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司 祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 ドーラ・レイチェル・ハワード (1947 英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906 英)
- 19日 司 祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司 祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950 英)
- 21日 主 教 ホレイス・H・プライス (1941 英)
- 22日 司 祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司 祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950 英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タプソン (1940 英)

◇ 12月11日 (水) 10:30 ~

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ステパノ 柳時京司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930 英)
- 2日 主 教 チャニング・ムーア・ウイリアムズ (1910 米)
- 4日 司 祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司 祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946 米)
- 16日 司 祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司 祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912 米)
- 宣教師 エミリー・ピショップ・ボウルトン (1926 英)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888 英)
- 19日 司 祭 ダニエル 小池 虔二 (2014)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 司 祭 近重 利澄 (1934)
- 27日 司 祭 ヘンリー・レナード・ブレビー (1942 英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司 祭 マルコ 伊墻 八束 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970 英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時
30分から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。
ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

祝 受 洗

○川口基督教会

- バルナバ 小松 子晏
 - アンデレ 菅野 翼
 - ルシア 前田 直子
 - アンナ 益田 幸江
 - セシリア 高橋 幸江
 - クララ 高橋 幸江
 - アブラハム 丸山 孝一
 - プリスカ 有田 梨夏
 - リディア 角野 住美子
- (9月15日)



○大阪聖愛教会

マリア・グレイス

月山喜代子

○芦屋聖マルコ教会

セシリア

テモテ

(9月1日)

祝 受 按



○川口基督教会

- バルナバ 小松 子晏
- アンデレ 菅野 翼

ルシア

アンナ

プリスカ

リディア

クレメンヌ

○芦屋聖マルコ教会

セシリア

テモテ

(9月8日)

前田 直子

益田 幸江

(6月16日)

有田 梨夏

角野 住美子

上之園 颯

(9月15日)

友田 悦子

森高 光

(9月8日)

魂の平安を
祈ります

○大阪聖愛教会

マリア・グレイス

月山喜代子

○西宮聖ペテロ教会

エステル

平田 明子

(5月18日・91歳)

○川口基督教会

アブラハム

丸山 孝一

(6月18日・80歳)

マーガレット

名出 千江

(6月29日・85歳)

シフラ

森 敦子

(7月27日・90歳)

テモテ

大方 聡

(9月16日・67歳)

お詫び
教区報第468号で、川口基督
教会の受洗者、受按者および
逝去者のお名前が抜けていた
ため、今号に掲載しました。
お詫び申し上げます。